

ヤマメ放流で 河川環境学ぶ

みどり

両毛漁業協同組合を母体に設立された「渡良瀬川水系魚ふれあい振興会」(代表・中島淳志組合長)は、みどり市東町の黒坂石バンガロー・テント村で、ふれあいワークショップを開いた。親子連れなど58人が、ヤマメの放流や学習交流会を通

じて、漁協の仕事やヤマメが成育する河川環境を学んだ。

参加者は体長12センチほどのヤマメをバケツで黒坂石川に運び、スタッフから魚をつかむときは川の水で手を冷やしてから触るよう指導を受けながら1500匹を放流した。

学習交流会では魚類専門家からヤマメの生態の説明を受けた後、桐生市内の渡良瀬川支

流で撮影したヤマメの産卵行動の映像を見ながら、渓流魚が子孫を残せる河川環境について考えた。

中島組合長は「漁協の役割や自然への関心を深め、川や魚のことをもっと知ってもらいたい」と話した。

同振興会は来年2月に毛針作りと水生昆虫の観察会、3月に毛針釣りの教室を開催する予定。



ヤマメや川について学んだワークショップ